

うちの近所 コレイチ

わが町 自慢紹介 17



桜と「にぎわい市」で 華やぐ岸和田城下の風情

岸和田城の築城年は不明ですが、1585年(天正13年)に、羽柴秀吉の伯父・小出秀政が城主となり、この時に城郭整備がされ、天守閣が築かれました。天守閣は1827年(文政10年)に落雷で焼失、維新期に櫓・門など城郭施設が壊され、近世以前の構造物は堀と石垣が残るのみです。

1954年(昭和29年)に図書館として天守閣が再建され、現在は郷土資料館として、ウェディングやギャラリィ、各種イベントなどに活用されています。



お城まつりの頃、桜が満開の岸和田城

用されています。庭園設計の第一人者、重森三鈴氏によって設計監督された天守閣の前に広がる石庭も必見です。

4月は「お城まつり」と「にぎわい市」

4月には岸和田城周辺の約170本の桜が満開となり、4月1日から15日まで「お城まつり」で賑わいます。夜にはお城がライトアップされ、夜桜見物も風情があります。

お城の海側の紀州街道沿いは城下町の風情を残し、4月7日には紙芝居や南京玉すだれ等の催しや約100店舗が出店する「にぎわい市」で賑わいます。お花見がてら城下町の風情を味わいませんか。



紀州街道本町地区のにぎわい市

Culture Navi かるちがーなび

「書かされた」友だちのためにも負けられへん!

人間の尊厳かけた胸が熱くなる闘い

第1回弁論で「たとえ選挙で選ばれた市長であっても、日本国憲法の下にあり、法秩序を破壊し、憲法により保障されている基本的人権を侵害する行為を行う権限など、一切与えられてはいない。今後二度と同様の違法行為を行わせないことが本件訴訟の最終目的ある」と述べた弁護士さんの陳述を聞いて、胸が熱くなりました。

「人の温かさ」と「仲間のありがたさ」が力に

私はこの「職員アンケート」を見たとき、ま

ず腹が立ち、そして「何でこんな書かないとあかんねんや!」とすごく思いました。友だちが「強要されて書いた」ということを聞き、絶対に負けられへんと思っています。

この裁判闘争を通じて、「人の温かさ」と「仲間のありがたさ」を感じています。全国からの支援もすごいし、訴えに行った先々で励まされることに、ホントに感謝しています。

「全体の奉仕者」として市民と向き合って仕事ができるように、人間の尊厳をかけた闘いとして、微力ですが勝利するまでがんばります。



「スタンダップ」はシンガーソングライターのかわさきゆたかさんが作曲した「思想調査アンケート裁判」の応援歌です。

「思想調査アンケート」裁判
原告55人の決意
スタンダップ
No.6 井脇 和枝さん

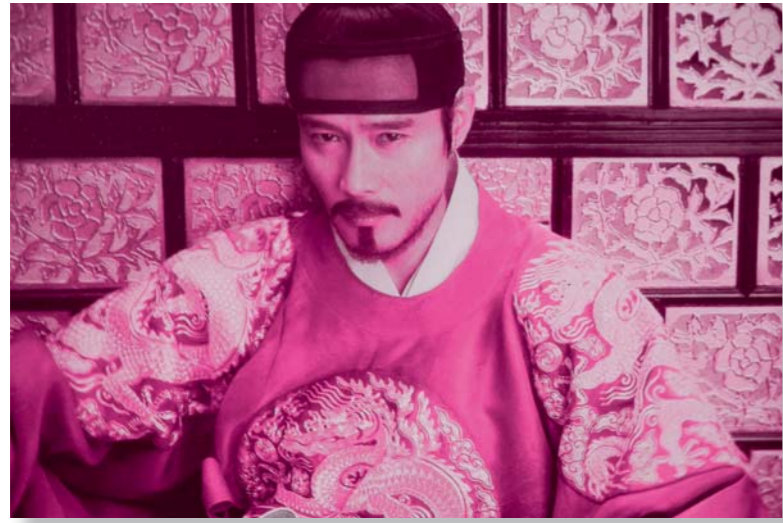
影武者こそが民を思う王様に

「王様とその影武者」というドラマは古今東西で取り上げられてきました。この韓国映画もそうしたひとつですが、韓国では何と1000万人を超える観客を動員して大ヒットした国民的作品です。

15世紀から16世紀に実在した、李氏朝鮮の第15代国王・光海の史実とフィクションを交えて、ストーリーもたいへんドラマティックです。笑いとおかしみもあり、泣かせる場面もあります。1616年、朝鮮王朝15代国王・光海の治世。宮廷内で王位を狙う陰謀がうごめくなかで、忠臣たちは王の暗殺を防ぐために、王と瓜二つの顔立ちの道化師・ハソンを、銀貨20枚をエサに宮廷に連れてこさせ、光海の影武者に仕立てあげ

ます。ハソンは王としての振る舞いや宮廷の生活に慣れるに従い、政治のあり方に疑問を抱き始めます。影武者で偽物の王ですが、宮廷の権力闘争や厳しい徴税の悪政が民を苦しめていることを知り「国王とは外国に隷属するのではなく、民のために尽くすこと」と説く姿は威厳のある真の王の姿でした。

韓国の人気俳優イ・ヨンホンが初の時代劇で、2人の王に扮して、演じ分けているのが圧巻です。重臣たちが、何とかして道化師を風格のある王に仕立てるために画策する姿や、宮中の衣食住のしきたりにとまどう道化師の様子も見どころです。とにかく、おもしろさ抜群の映画です。上映時間131分。



「王になった男」

16th Anniversary がい

緊張することが私のエネルギーなんです
緊張していないということは
自信過剰になっていることを意味します
自信過剰だと新しいものを取り込めなくなるのです
スティーブンスピルバーグ

2012年2月22日放送のNHKクローズアップ現代「永遠の映画少年」のインタビューでの発言。映画界最大の祭典、第85回米アカデミー賞の発表・授賞式が2月24日(日本時間25日)あり、注目の最多12部門でノミネートされたスピルバーグ監督の前評判の高かった「リンカーン」は作品賞に選ばれませんでした。でも、映画を製作しながら「未知の世界への扉」(未知との遭遇)を開いている、「永遠の映画少年」に落胆はないでしょう。

心に響くひとこと

名利に使はれて、閑かなる暇なく
一生を苦しむこそ、愚かなれ
(徒然草第38段) 吉田 兼好

「名利」は名譽欲や利欲のこと。そういう名利にしばられて、心の安穏なときもなく生きていくことなどは愚かなことであると説いています。そのあと続けて「財多ければ、身を守るにまどし。害を貰ひ、累ひ(わづらひ)を招く媒(なかだち)なり」と述べています。作者の人生観が語られています。